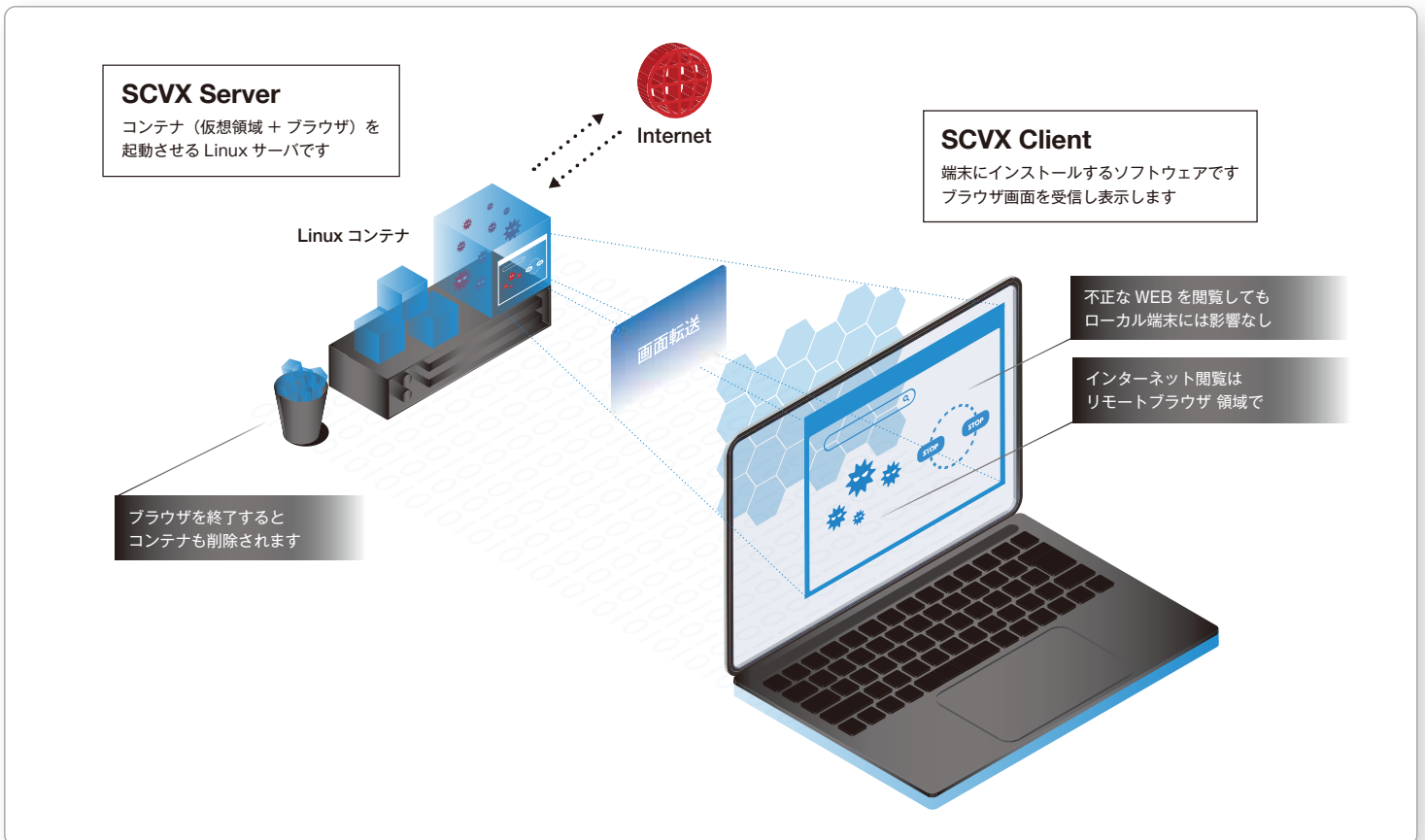


インターネット分離は非常に高いセキュリティを実現可能な対策ですが、“高額”かつ“WEBの利便性低下”といった導入に際しての非常に大きな課題があります。そういった課題に対し、SCVX (エス・シー・ヴィ・エックス) は真正面から向き合い、インターネット分離を実現しつつも、低コストかつ、今まで使ってきたWEB環境に限りなく近い操作性を実現すべく開発を重ねてきました。

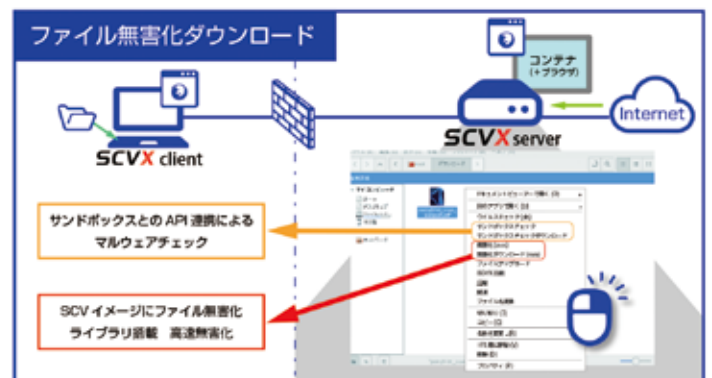
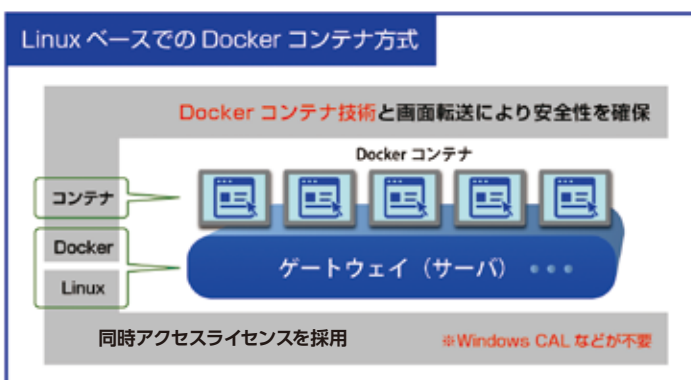


低コストが実現できる理由

いくつかあるインターネット分離の手法の中でSCVXは、LinuxベースでのDockerコンテナ技術を利用した仮想ブラウザ方式を採用しております。これにより他の方式で必要となるWindows Remote Desktop Services CAL (RDSCAL)が必要なくなり(※)、導入時のコストの大幅な削減を実現しております。※例えば利用者が1万名的場合、RDSCALだけで1億円以上の費用が発生します。

ローカルアプリケーションのような使い勝手

従来のインターネット分離手法では複雑な操作が必要なファイルダウンロードを全てワンクリックで実施できるよう使い勝手を重視。もちろんインターネット分離の安全性は損なわず。また国産製品ならではの完全日本語対応、日本の業務実態も考慮された視覚的に分かりやすいインターフェイス設計で各種設定や運用/管理も容易です。

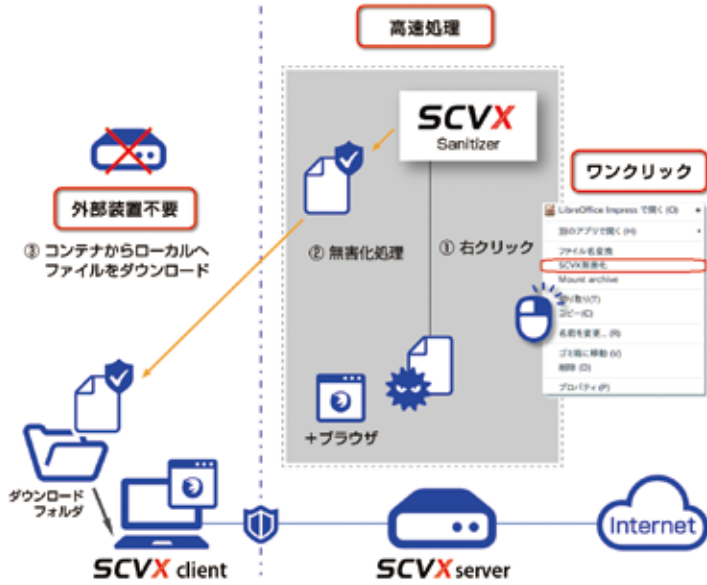


2つの安全なファイルダウンロード機能

インターネット分離環境において運用上もっとも弊害となるファイルのダウンロードを安全に実現。

SCVX Sanitizer

ファイルのマクロ等マルウェア混入の原因を排除し無害化したファイルを安全にダウンロード



SCVX Threat Checker

AIを利用した第4世代サンドボックスでファイルチェック。無害化できないファイルも安全にダウンロード

